



そば食い競争に熱い声援 比和やまびこ祭

10月19日、「比和の里、ひびけこの声、心意気」をテーマに、比和総合運動公園で第16回比和やまびこ祭が開催されました。

比和特産の「そば」をPRする「そば食い競争」は、この祭りを象徴する恒例イベントとなり、比和町各地域からの代表選手や祭りの客が参加。必死でそばを口に入れる選手たちに、「がんばれ」「もっと速く食べて」と会場から多くの声援が上がっていました。



そば食い競争

また、比和中学校の生徒たちによる「比和牛供養田植」をはじめ、太鼓の競演や演歌歌手の永井みゆき歌謡ショーなど、ステージを盛り上げました。

会場では、地元の特産市場や自治振興区など、市内外から多くの団体が出店。新鮮な農産物や加工品、比婆牛もも肉の丸焼きなどを販売し、比和町ならではの味覚を楽しんでいました。



永井みゆき歌謡ショー

地元で捕れた魚でバイキング 田総川を丸ごと食べる会

笑湖ハイズカ歓交協会などが9月28日、総領町の木屋癒香の杜で、「田総川を丸ごと食べる会」を開催しました。

実行委員会のメンバーが、田総川や灰塚ダム湖で捕れた魚を鯉のあらいや、ブラックバスの唐揚げなどに料理。その他、ダム湖で試験栽培している空心菜の炒め物など、約10種類の料理がテーブルいっぱいに並びました。

1,000円食べ放題のバイキング形式で、参加者は1品1品皿に盛り付け、田総川ならではの食材を活かした料理に舌鼓を打ちました。

続いて行われた笑湖ハイズカコンサートでは、さわやかなケーナの演奏と、「ザ・わたしたち」のパワフルな歌声が木屋の谷間に響きわたりました。



魚料理バイキングを楽しむ参加者

森林の魅力を感じて楽しむ ひろしま「山の日」県民の集い

ひろしま「山の日」県民の集いが10月12日、四季の森とうじょうで開催され、市内外から約150人が参加しました。

これは、身近な森林とかかわるきっかけを作ろうと、森林づくりを進める「東城フォレスト2000」が企画しました。

「東城の森林（もり）で楽しもう」をテーマに、参加者は広葉樹の手入れ、草木染め、山菜餅つき、竹炭づくり、木の枝を使ったクラフトなどを体験。草木染め体験では久保田昭美さんの指導で、桜や栗、ねむの木などから作った染料を使い、ハンカチを思い思いに染めました。

昼食には、手作りの「帝釈栗おこわ」や「なば汁」がふるまわれ、秋の味覚を楽しみました。

紅葉の始まった森のステージでは、東城中学校の吹奏楽演奏と比婆荒神神楽が演じられ、参加者は「森林の魅力を感じて楽しむことができた」と喜んでいました。



草木染めを体験



和牛の里の魅力を ギュウっと満喫 口和モーモー祭・庄原みりの祭典'21

かつて日本一にも輝いた和牛の産地・口和町で、牛をテーマにした「口和モーモー祭」が10月11日・12日の両日、口和総合運動公園で開催され、約26,000人の来場者でにぎわいました。

和牛18頭による「モーモー大行進」や、「牛と子どもたちによる綱引き」など、牛が主役のイベントが多数行われ、家族連れなどが牛とふれあって楽しみました。

今回は市内各地域の特産品が集まる「庄原みりの祭典'21」と合同で行われ、56団体が出店。人気の和牛の炭火焼コーナーでは、4,000パックが完売し、牛もも肉の丸焼きや地元特産品の販売に長い行列ができました。

ステージでは、郷土芸能をはじめ、演歌歌手の北山たけしさんや原田悠里さんの歌謡ショーで盛り上がりました。



市内外から多くの人々が来場(写真上)、牛と子どもの綱引き(写真下)

元気いっぱい笑い満載 ふれあい東城まつり



東城保育所の竹太鼓



横山ホットブラザーズショー

第26回ふれあい東城まつりが10月19日、東城小学校グラウンドをメイン会場に開催されました。

東城保育所の園児による元気な竹太鼓の演技と、色とりどりの風船が舞い上がり降りたりするスパークバルーンで開幕し、秋の味覚を楽しめる屋台テントや、はしご車の搭乗体験などのイベントが行われました。

ステージでは、広島県警音楽隊の迫力のある演奏や、笑いで会場を沸かせた「横山ホットブラザーズショー」、東城各地域の歌自慢の「ふれあいのど自慢」が行われ、来場した人々の笑顔が絶えない1日となりました。

また、18日に前夜祭「ふれあいの夕べ」で音楽芸能の発表が行われたほか、17日からの3日間、書道や生け花などの作品が展示されました。

交通安全への願いを込めて 秋の交通安全 TENT 村



マスコットを手渡し子どもたち

9月22日、西城町小鳥原の国道183号線沿いのチェーン着脱場で、秋の全国交通安全運動にあわせて交通安全TENT村を開設しました。

この時期は、秋の行楽シーズンの到来とともに外出の機会が増え、スピードの出しすぎや気の緩みから、交通事故が多発する時期でもあります。

TENT村では、地域ぐるみで安全を守るようと、小鳥原みどりの少年団の児童7人と保護者が、交通安全チラシとあわせて、安全への思いを込めて手作りした交通安全マスコットを行き交う自動車のドライバーに手渡しました。

手渡されたドライバーからは「ありがとう」と笑みがこぼれ、安全への願いが伝わっていました。

わたしらしく輝く方法を学ぶ 西城で男女共同参画講座

10月15日、西城保健福祉総合センターしあわせ館で、男女共同参画講座が開催されました。

この講座は、男性も女性も自分らしくいきいきと暮らせる社会づくりの第一歩として、「心と身体を元気に」をテーマに西城地域で開催。3回目となるこの日は、「初めてのプリザーブドフラワー」と題して行われ、市内の女性19人が参加しました。

プリザーブドフラワーとは、生花を一度脱色して着色し、保存液を吸わせた花で、生花とほとんど変わらない美しさを長期間保てるよう加工したものです。

講師の伊豆昌恵さんの指導で、バラのプリザーブドフラワーを中心に、カスミソウやアジサイをリボンなどと組み合わせ、小鉢や小さなパラソルにアレンジしました。参加者は彩りよくでき上がった作品を見ながら、「リラックスして花に触れ、気持ちがりフレッシュできた」と話していました。



思い思いのイメージでアレンジ

秋の味覚で地域の輪 和南原で「秋穫祭」

高野町の和南原自治振興区が10月19日、和南原コミュニティセンターで「第2回秋穫祭」を開催し、区民など約500人が参加しました。

農産物の品評会では、特産の高野大根をはじめトマト・ネギ・里芋など丹精こめて栽培された自慢の野菜が並び、上位入賞者を表彰。参加者はもちつき・バザー・大鍋のふるまい汁、ヤマメの塩焼きと、和南原の味覚を楽しんでいました。

ステージでは、地元和南原こども会による銭太鼓と庄原市上谷町の不老仙太鼓が披露され、迫力ある演奏に大きな拍手が送られました。

イベントの最後は参加者全員でばい流しを踊り、地域の輪と団結を誓っていました。



地元の野菜が並んだバザーコーナー

美しいまちづくりに市民が一丸 全市一斉クリーンキャンペーン



市民の環境美化意識の高揚を図ろうと、庄原市公衆衛生推進協議会と庄原市は10月5日、庄原市をきれいにする全市一斉クリーンキャンペーンを行いました。

市内各地域では、自治会などが中心となって、道路や公園の空き缶や散乱ごみを拾うなど環境美化活動を実施。庄原地域の上原一区自治会では、美しく住み良いまちにしようと、不法投棄の撲滅を訴える横断幕を東小学校の近くに掲げました。

10月18日には、庄原市シルバー人材センターが上野公園で清掃活動をするなど、市内各地で会員が奉仕活動を行いました。

上原一区自治会が作成した横断幕

収穫の喜びを地域から学ぶ 比和保育所世代間交流事業

比和保育所の園児29人が10月15日、比和町永原地域で、5月中旬に自分たちで苗を植えたサツマイモの収穫作業を行いました。

この収穫作業は、サツマイモ栽培を通じた世代間交流を図ろうと、永原サロン「かわせみクラブ」の協力により、昨年から実施しています。

園児たちは、サツマイモの掘り方を教えてもらった後、手伝ってもらいながら大きく育ったサツマイモを、素手で泥んこになりながら一生懸命に掘り出し、サツマイモを両手に抱えながら「大きいのがとれたよ」と喜んでいました。

収穫したサツマイモは保育所で干して、今後、給食やおやつとして食べる予定です。

松島やすえ所長は「数年前、イノシシ被害にあって収穫できなかったこともあり、地域の皆さんの支援で、子どもたちに収穫の喜びを体験させることができうれしい」と話していました。



泥んこになってサツマイモを掘る園児と地元住民

上野公園を快適に利用して 庄原ライオンズクラブが清掃奉仕

庄原ライオンズクラブ（会長：片山孝昭）が10月8日、庄原上野公園で草刈りなどの清掃作業をしました。

これは、ライオンズクラブ国際協会の第1回国際大会が開催された日が10月8日であることから、この日を「ライオンズデー」として全国的に行われる奉仕活動です。

会員33人は、上野公園周辺を気持ちよく利用してほしいと、日ごろからウォーキングなどで利用の多い上野公園の弁天島から上野総合公園陸上競技場へ続く上野池湖畔の園路沿いを中心に、草刈りなどの清掃作業に汗を流しました。

庄原ライオンズクラブは、本年度のスローガンを「明るい地域づくりを目指して奉仕」と定め、この他にも桜のテングス病の駆除など、常に奉仕の心で地域に密着した活動をしています。



作業に汗を流す庄原ライオンズクラブの会員の皆さん